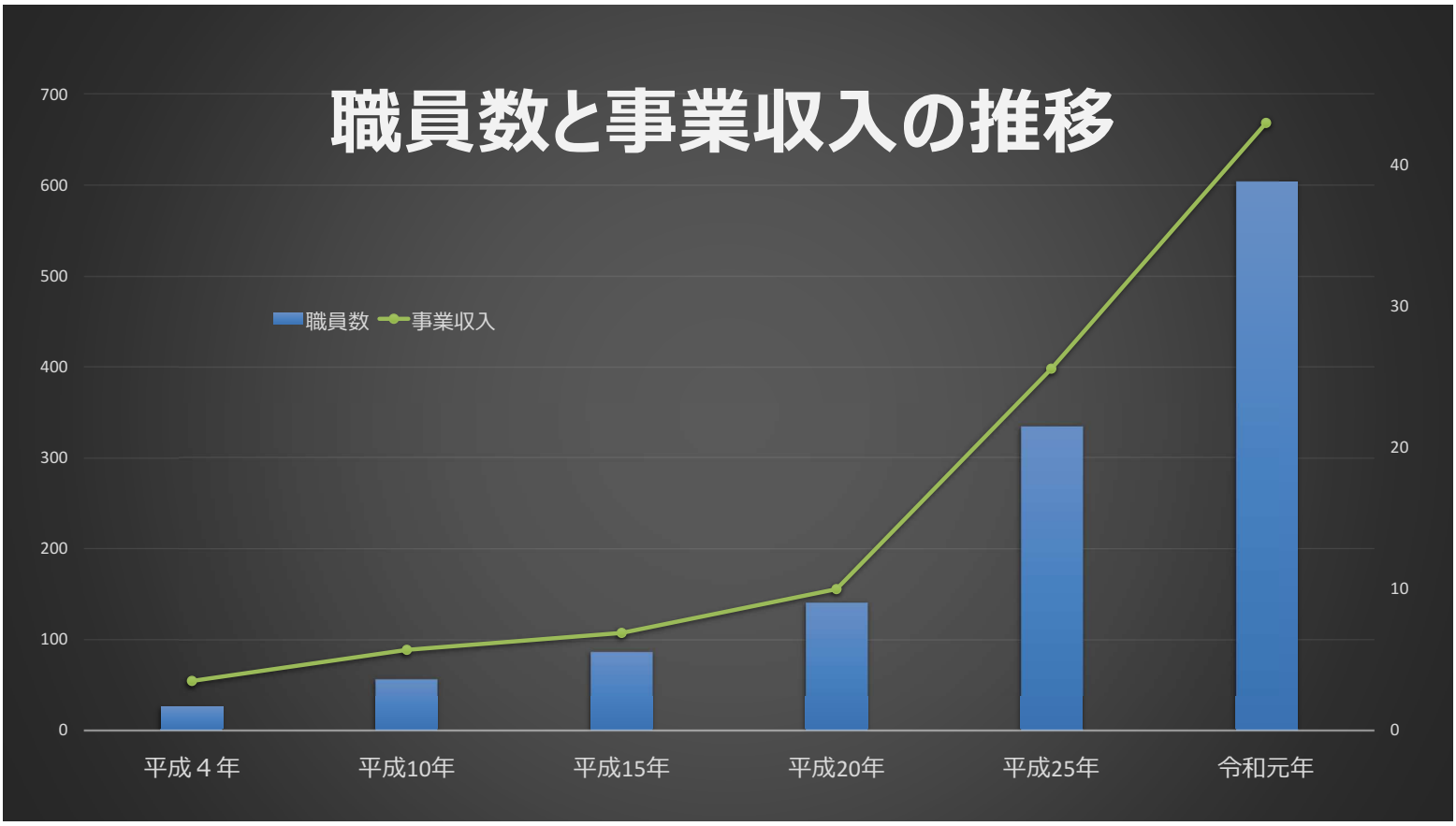
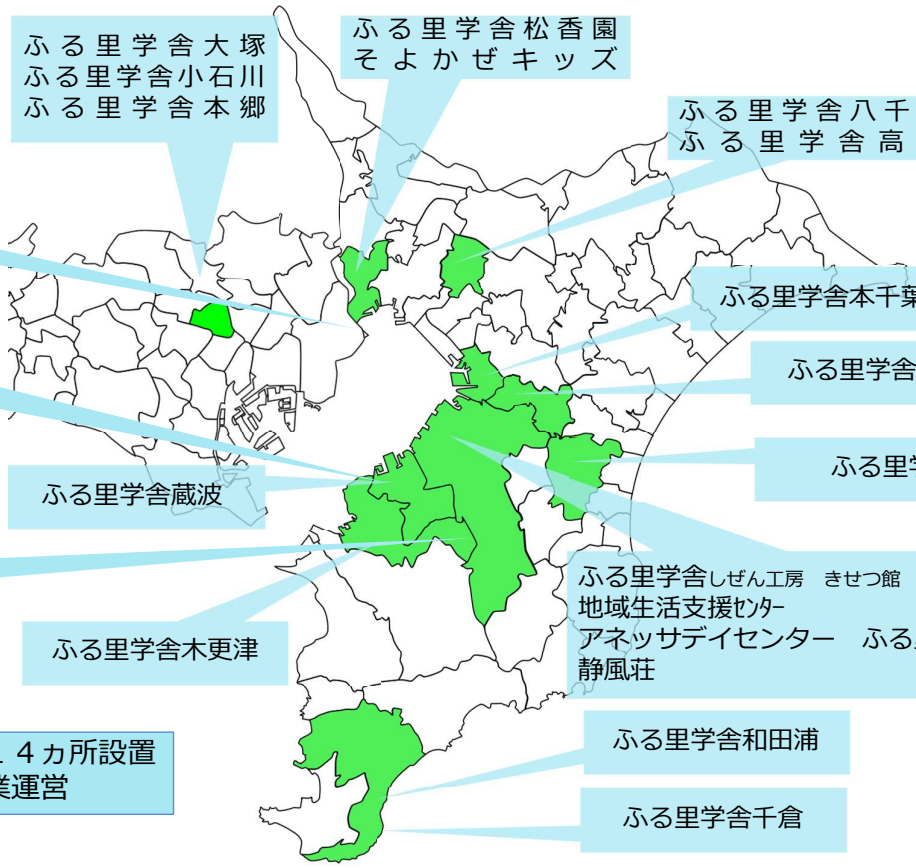
社会福祉法人佑啓会 ふる里学舎



事業拠点



その他　〇グループホーム１４ヵ所設置
〇各拠点で複数事業運営

事業内容

１０８事業　定員１３９１名

ライフステージに合わせた支援

幼児学童期	成人期	高齢期
○児童発達支援	○生活介護	○生活介護
○放課後等ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽ	○就労移行支援	○就労継続支援
○保育所等訪問	○就労継続支援	○相談支援
○相談支援	○相談支援	○ﾎｰﾑﾍﾙﾌﾟ
○ﾎｰﾑﾍﾙﾌﾟ	○ﾎｰﾑﾍﾙﾌﾟ	○入所支援
○入所支援	○入所支援	○短期入所
○短期入所	○短期入所	○ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ
	○ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ	

居住支援するに至る背景・経緯

・1993年（H5）　ふる里学舎運営開始

・措置制度の中での在宅支援。

・GH設立、地域生活支援のきっかけは
地元企業からの相談

法人内の体制

・在宅支援は「ふる里学舎地域生活支援センター」が担っている。

・事業内容は
　・障害者就業・生活支援センター事業
　・計画相談支援事業（法人全体の相談支援の取りまとめ）
　・市町村委託相談事業（基幹サテライト）
　などの担当者を中心に、法人内各事業所のスタッフも兼任し、構成。

・登録者約1,700名

不動産関係者との連携

・運良く、障害に理解があり、信頼のおける不動産業者はすぐに見つかった。別の地区でも簡単にいくかと考えていたが・・・

→中には、「障害者の入居はお断り」と門前払いになることも！

・時間はかかったが、別の地区でも信頼できる不動産業者が見つかった。1件目の業者は、今では大家さんへの説明や説得にも一躍買ってくれている。

・GHを建てる場合、将来的にその近隣で単身生活する方がいることもイメージし、障害に理解のある街かなどを見極めることも重要。

居住支援の対象者

・障害支援区分で見ると、区分1～4の比較的軽度の知的障害の方が主な対象。中には、区分6の方の単身生活を支援したことも。

・障害を持つ子の親は、理想として、多くは衣食住＋支援者の整っている「入所施設」を求めている。それでも本人が希望するなら「一人暮らしはハードルが高いのでGH」。その先に可能性があるならサテライトGHで一人暮らし体験をしてからの単身生活が安心・・・と思われていることを支援者も理解しておく。

相談経路

・地域生活支援センターの登録者などから相談があり、本人や家族の意向、支援者側の判断などを総合的に見て、どこでの生活がベターなのか、皆で決めていくようにしている。

・昨年度　地域生活への移行に関する相談　12件
うち、単身生活に移行した方　5件
そのほかは、GH入居や短期入所事業所に行った方、あきらめた方

居住支援の取り組み方法

住宅確保時の支援

・信頼できる不動産業者を見つける

・収支バランスはしっかり把握！！

・保証人に関しては、保証会社を利用。
審査が通れば、緊急連絡先で法人や後見人をあげるだけで大丈夫。

・成年後見制度をかなりのケースで利用している。

入居後の支援

・必要に応じて地域定着支援サービスを受給してもらうなど、サービスを活用してもらっている。

・地域定着支援は安定するまで。原則1年間の支給

・相談支援専門員や民生委員（インフォーマルサービス）の協力。

失敗事例　～GHから単身生活・・・いや、入所施設～

・Iさん、男性、B-1、区分２。
・入所施設で生活されていたIさんがGHを希望されたため開始。
　同時に一般就労も開始。
・特に課題もなく、順調にいけば、単身生活も！と思っていたが・・・。
・ある日、表情が暗かったため話を聞くと、「孤独で寂しい」とある。
・入所施設の方が人がいっぱいいて楽しかったという。多くの関係者と連絡調整したうえで、すぐに入所施設に帰られている。今では入所施設で安心しきった生活をされている。

アセスメント不足の痛感、生活をイメージして頂くことの重要さ！

失敗事例　～入所からGH、そして単身生活へ～

・Sさん、女性、B-1、区分4。保護者なし。
・特別支援学校卒業後、入所施設で生活。他者とのトラブルが絶えず、常時の見守り支援が必要であった。
・当然、単身生活は無理だろう、ずっと施設での生活が続くのだろうと思っていた。
・しかし、GHに空きが出きたことをきっかけに、SさんからGHに行きたいという希望があり、目線を変えて支援してみることとなった。このタイミングで成年後見制度を利用し保佐人がつく。
・GHでは世話人などの支援もあり、多少のトラブル程度で済んだ。
・5年後、Sさんが単身生活を希望。不動産業者に連絡。駅まで徒歩圏内にアパートが見つかり、保証会社の審査がおり、緊急連絡先は保佐人として契約。
・チャレンジしてみたところ、そこからすでに20年以上地域での生活と、特例子会社での就労を継続している。

やってみなければわからない！！

最後に・・・

【障害当事者を真ん中に！】

家族でも、後見人でも、支援者でもない、障害当事者がどこで生活することが幸せかを考える。

【入所施設も地域の一員！】

入所施設から移行することがすべてではない。親元か、GHか、単身生活か。入所施設も必要な選択肢の一つであり、その中でよりベターな生活の場を考えることが求められる。

Product by FURUSATO GAKUSYA